

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達等の状況に応じた、最も適切な教育の創造」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
（１）卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
（２）健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
（３）安心で安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
（４）仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標

- 1（キャリア教育）児童生徒・教員ともに卒業後を見すえ、自立・自己実現、社会参加に向けた、小学部・中学部・高等部の連携による一貫性のある教育活動を進める。
（１）小学部の段階から、児童生徒が夢や志をもって自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。
（２）学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築とイノベーションの観点をふまえた教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。
（３）関係機関と連携し、生徒一人ひとりが希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。
（４）キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。
- 2（教育力向上）教員としての資質と教育力の向上とこれからの時代の変化に対応できる学校組織力の向上
（１）教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、児童生徒にとって「魅力的かつ分かりやすい授業」の実施をめざす。
（２）教職員一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。
（３）教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくりにより、教職員の組織力の向上を図る。
（４）ICT 機器の積極的かつ効果的な活用により、児童・生徒の学びの深化を図ると共に、一人一台端末に関する保護者のニーズを把握し、検討を重ねる。
- 3（安全安心）児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安心・安全に過ごせる学校づくり
（１）学校教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、教職員の見守る力と実行力で、安全で安心な教育環境を確保する。
（２）危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上。
（３）体罰防止と個人情報 の適正な管理運用を行う体制の確立。
（４）働き方改革のもと効率の良い業務推進で、教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成する。
- 4（地域連携）支援学校としてのセンター的機能の充実と、児童生徒が地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め豊かに生きるための地域連携の推進
（１）支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の向上を図る。
（２）本校の魅力的な取り組みを積極的に情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。
（３）交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
回収率令和6年度 保護者 81.3%（小学部 84%、中学部 78%、高等部 80%） 教職員 100% 令和5年度 保護者 69.3%（小学部 68%、中学部 78%、高等部 61%） 教職員 100% 教職員の回収率は、今年度も100%を達成した。保護者の回収率は昨年度 69.3%から 12 ポイント上がった。今年度は回収率を上げるために、必須項目を残して内容を精選したり、マークシート形式から丸チェック方式へ変更したり、回答しやすいように工夫を行った。12 ポイント上がったという結果から、その成果は十分に表れたと考えられる。 ○保護者 155 名回答（回収率 81.3%）18 項目の質問に対して 14 項目で肯定率 80%を超えていた。（昨年度 20／33 項目）。 ・「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。」（肯定率 96.2%）《84.4% R5》 ・「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる。」（同 94.9%）《90.2% R5》 ・「教職員は、子どもの障がいについて理解している。」（同 94.2%）《90.2% R5》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。 このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高いことが分かり大変嬉しいことである。また、以下の 3 項目に関しては 10 ポイント以上肯定的意見が上昇した。 ・「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。」（肯定率 96.2%）《84.4% R5》 ・「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。」（同 87.2%）《75.4% R5》 ・「子どもは給食を楽しみにしている。」（肯定率 81.4%）《71.3% R5》 ○教職員 100 名回答（回収率 100%）28 項目の質問に対して 22 項目で肯定率 80%を超えていた。（昨年度 29／47 項目）。 ・「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。」（肯定率 95.0%）《92.6%R5》 ・「教職員は服務規律の遵守等、教育公務員としての自覚をもって勤務している。」（同 94.0%）《88.4% R5》 ・「児童・生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。」（同 94.0%）《93.7% R5》 ・「児童・生徒が夢や志をもって事故の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むような指導、支援を行っている。」（同 94.0%）《90.5% R5》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。 ○学校経営計画に目標指標が設定されているが、その目標指数を達成できなかった項目（保護者）は以下の 3 項目である。 ・「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている（感じている）。[80%以上]」（肯定率 78.8%）《77.9% R5》 ・「学校は子どもに 1 人 1 台端末（タブレット型 PC）等を効果的に活用している。[65%以上]」（肯定率 56.4%）《63.1% R5》	【第一回学校運営協議会】7月12日図書室にて開催 ○協議テーマ ・学校運営協議会実施要項 ・今年度の学校経営計画について ・学校紹介動画について ・各学部、分掌より活動計画重点について ・今年度の採択教科書について ○学校運営協議会委員からの意見 ・キャリア教育の研修内容について、中学部卒業後の進路選択や本校の職業自立コースについての研修、教職員対象の施設見学会や福祉サービスの利用に関する研修を実施予定であることが分かった。12 月には保護者向けに成年後見人制度についての講演会を計画していることも分かった。 ・初任者等経験の少ない教員の研修について、4月に新任者研修を実施。また、バディシステムを導入し、初任者が相談しやすい環境を整備。さらに、他校の研修にも参加する機会を提供していることが分かった。 ・教育計画、分掌計画、評価指標がリンクしてつながっている 目標を意識して業務されているのがよくわかる。各部の働き方改革 情報機器の活用も考えられている。子どもたちに加えて、先生方も校務の方で使ってほしい。守口市立の学校では、参観シートをオンラインにして同時に共有しているところもある。工夫して働き方改革につなげてもらえたらと思う。 ・ハローワークでは高等部3年生の生徒が多いが、小学部の子どもの写真を見て、こうして小学部、中学部を経ているのだと分かった。 ・支援学校の DVD は支援学校のアピールを保護者に知ってもらい良いきっかけになると思った。今後、地域に向けての理解につながることも考えて作ってもらえたらと思う。 ・小学部からの積み重ねが大事になる。働くことが全てではないが日常生活のことから進めてもらえればつながると思う。 【第二回学校運営協議会】11月1日図書室にて開催 ○協議テーマ ・今年度の学校経営計画の進捗状況について ・各学部等からの教育活動報告 ・学校教育自己診断について ○学校運営協議会委員からの意見 ・卒業生のアフターフォローについて教えてほしい。 【第三回学校運営協議会】2月12日図書室にて開催 ○協議テーマ ・学校運営協議会実施要項改正について ・令和6年度学校教育自己診断集計結果報告 ・令和6年度学校経営計画の総括と今後の課題について ・令和7年度学校経営計画について 令和7年度の学校経営計画については承認された。 ○学校運営協議会委員からの意見 ・新校務処理システムのシステム構築の様子について確認。 ・「高等部卒業後の進路」「進路決定までの流れ」をテーマにした研修について、同僚性の中で培われていくことが大切だと思うが、想定内容を確認できた。 ・学校教育自己診断等アンケートのオンライン回収について。通信状況等の理由で紙

以上の結果より、教職員の服務規律の遵守や児童・生徒に対する人権意識については、ミニ研修やアクションプランの周知等により教職員間での共有や周知に取り組んできた成果と考える。 ●この結果を受け、目標値に達しなかったところを中心に次年度は再度検討を重ね、重点的に取り組んでいくとともに、保護者への周知についても改善していく必要がある。 ・次年度の本校の重点取り組みについて ① キャリア教育の推進を柱とし、新教育課程の実施・検証を行い、学部連携、教員育成をさらに推進する ② 指導力、授業力の向上をめざし、児童生徒にとってワクワクする授業の確立 ③ アナログとデジタルのバランスの取れた活用を意識しつつ、ICT 機器の更なる効果的な活用を進める ④ 教員のコミュニケーションの機会を設け、風通しの良い職場環境を構築し、教職員が心身ともに健康な状態で充実した教育活動を提供する ⑤ 地域の学校等との交流及び共同学習の計画的・組織的な継続	でのアンケートを続けていることがわかった。また、検討していくとのこと。 ・児童生徒の支援方法や進路決定に至るまで、支援学校のノウハウを地域の一般校にももっと広げていけたら良い。 ・高等部の地域校との交流はインクルーシブという意味で、非常に望ましい形である。 ・学校教育自己診断（教職員）の「大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう、対策の検討と整備を行っている」の否定的意見が上がっている理由について、本年度より大規模災害対応委員会PTを立ち上げ、備蓄食や校内備蓄品の課題について改善に取り組んでいることがわかった。 ・学校教育自己診断（教職員）の「教職員間におけるパワハラ・セクハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発等を行っている」の否定的意見が上がっていることに対して確認。人権研修等により、人権についてよく考えるようになった結果で、校内としては風通しよく、教員同士で話しやすい環境づくりをめざしていることもわかった。 ・学校教育自己診断（保護者）の「1人1台端末を効果的に活用している」の目標指数が到達できなかった項目に対して確認。児童生徒数分、端末を配備されていないことや、限定した使い方、本校でもできる持ち帰る方法も検討していくことがわかった。 ・地域の高校との交流で、交流した高校の生徒たちの感想は肯定的な意見が多いことがわかった。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	（１） 児童生徒が夢や志をもって粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。	（１） ア 「各教科の内容充実」について、共通の認識を周知する イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用	（１） ア・「各教科の内容充実」について、並びに「横断的な指導」の検討ができたか。 ・PT を立ち上げ教材の整理と教材の共有化をはかれたか。	（１） ア・研修を2回実施した。7月全体研修、9月に指導主事を招いての研修を実施した。（○） ・年度当初に教材データ格納場所を示し、各学部・学年のペースで共有化を進めた。8月の職員集会では他学部の閲覧が可能になり、教材の使用ができています。多くの教材データが集まっている。（○） イ・10月に研修を実施し、それぞれの計画についての理解を深めた。（○） 保「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90.4%（0.6P↓） キャリア教育については、シラバスの定着化に加え、学部をこえた各教科の情報や教材共有により、着実に進んできている。（○）
	（２） 学部間の連携と情報共有を深め、連続性のある学びの構築 （３）一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。	（２） ア 全校教育課程の構築 - 各教科の学部を超えた授業内容の共有 3学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施（R5年度に改訂した行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事の実施） - 全学部において、新時間割の運用及び改善点の意見集約による定着。学年進行の授業体制の引き続きの検討 （３） ア・中学部、高等部生徒の進路選択における教育活動の充実 高等部：各学年で主体性のある進路学習の実施 中学部：職場体験学習の改善 小中学部：新たな進路学習の検討 - 保護者への進路に関する情報提供の充実 保護者対象の説明会や実習先就労先の見学会実施 イ・定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実 - 年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。	（２） ア 保「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[90%] 教「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」70%以上維持[74%] （３） ア・それぞれの学部で「具体的な取り組み計画や内容」の改善や実施に向けた検討が出来たか。 ・説明会や見学会（8ヶ所以上）を実施できたか。 ・アビリンピック参加に向けて検討、準備ができたか。 イ・旧担任等による進路先訪問（R5卒業生全員）が実施できたか。 ・卒業生対象の相談会（R4、5年度卒業生）を2回実施できたか。 ・ホームページの卒業生向けページの内容を充実させることができたか。（同窓会や行事、相談会など来校の機会についての案内を掲載する） （４） 保「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上[74.7%] ア・「福祉サービスの利用について（仮）」「成年後見人制度」等をテーマとした全校研修を2回以上実施できたか。 - 小・中学部教員が「高等部コース制研修会」へ参加し本校の進路指導等に理解を深めることができたか。 - 中学部、高等部卒業後の進路先やその多様化について学んだか。（教員対象のアンケートを実施しはかる）	（２） ア・全校教科会で授業内容の共有は行うことができた。【年4回】（○） 保「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」94.2%（4.7P↑） 教「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」81%（7P↑） - 行事シラバスに則って実施2年目。概ねシラバスに沿って実施することができた。 また、各学部より実施後に挙がった課題について検討を進めている。（○） 1 学期をめどに時間割に関するアンケートを実施し、検討を行った。課題を解消した時間割を作成した。（○） （３） ア・高等部：施設見学、職場・体験・現場実習、関係機関との連携、進路懇談等を実施できた。（○） 中学部：職場体験学習の内容の整理を行い、時期や実習先などの検討を行った。 職場体験学習において、担当学部の教員がより深く実習に関わるよう検討、調整を行った。（○） 小学部：部内の進路に関わる活動の整理を進めることができた。（○） - 説明会は、5月に高等部保護者向けに福祉説明会、12月にPTA講演会を実施した。 事業所見学会は、前期に9ヶ所実施した。後期にも2ヶ所実施。（○） - 進路指導部長と高等部主事でアビリンピックの見学・視察を行った。（○） イ・R5 卒業生全員の企業・事業所への訪問を実施した。（転居者1名除く）（○） - 相談会は6月の同窓会時に1回目を実施、12月に2回目を実施。（○） - 今年度から学校行事への卒業生来校が可能となったので、同窓会の案内と同様に案内の掲載を行った。年間を通して掲載を続けた。（○） （４） 保「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」81.4%（6.8P↑） ア・「福祉サービスの利用について」を守口市障がい福祉課と期間相談支援センターから講師を招き8月に実施した。（○） 「高等部コース制研修会」を7月に実施し、本校コース制や卒業後の進路について理解を深めた。アンケート結果は「理解が深まった」が100%であった。30件（○） 12月にPTA講演会「成年後見人制度」を実施。20名参加希望があった。（○）
	（１）教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成を行う。	（１）	（１） 保「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[78%] 教「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[92.6%]	（１） 保「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」78.8%（0.8P↑）（△） 昨年度より数値は上昇したが、目標数値には届かなかった。該当項目の否定的な回答は少なく、わからないとの回答が全体の17%近くであった。授業参観アンケートも肯定的な意見が多いことから、引き続き、効果的な授業参観を実施するとともに、学校ブログ等で授業の様子を保護者へより発信していく。 教「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」95%（2.4P↑）

2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上		ア 授業力向上のための授業見学や公開授業の充実と工夫と出前授業の実施【研】 イ 校外の研修等の情報共有 ・府内外の研修への積極的に参加と伝達講習の実施徹底。 ・研修成果の「見える化」を検討 ウ 校内研修の充実を図る ・教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち支援 Lab」の継続実施【支】 ・教員のニーズを聞き取り、見合った校内研修を実施【研】 ・部別研修の回数の検討	ア ・地域等を対象とした活発な公開授業と（校外から 10 人以上参加/各回）出前授業が実施できたか。【研】 ⑧「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上[78%] イ ・「見える化」の検討ができたか。 ⑧「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[85.3%] ウ ・「具体的な取り組み計画や内容」の実施等が出来たか。 ⑧「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[91%] ⑧「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[76.8%]（R5 0.8%↑） （2） ⑧「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[92%] ⑧「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」60%以上[58%] ア・研修等実施（年 2 回以上）と講師経験のない教員が講師になり、校内での研修をできたか。 ・チェックシートの周知、活用ができたか。 ・施設見学会の時期の検討ができたか。 イ・児童生徒へ「さん」「くん」での呼名が徹底されたか。 ・学習会や校内研修をできたか。 （3） ア ⑧「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[88.4%]（R5 9.6%↑） イ ⑧「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができていいる」70%以上維持[75.8%]（R5 10.4%↑） ⑧「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」70%以上維持[76.8%]（R5 3.0%↓）	ア・授業見学、公開授業を 7 月、10 月に実施した。守口市と門真市の小・中学校や教育委員会関係者等より、各会 10 人以上の参加があった。出前授業は、3 学期に小学部で実施している。（○） ⑧「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%（2P↑） イ・研修の「見える化」については、A 棟ホールの掲示スペースを拡大し目につきやすい場所に掲示した。（○） ⑧「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」80%（5.3P↓） ・学校視察や研修参加等の日程が3学期に集中したことにより、研修成果を発表する場の設定も3月になったことが要因であると考える。今後は計画的な伝達の場の設定を行ってきたい。 ウ・教員のニーズを踏まえ、他校の教員を講師に招き、ICT の全体研修を実施した。（○） ・部別研修 6 回実施した。計画通り進めることができた。部内発表、ポスター発表を計画している。次年度に向けて回数、内容を検討。（○） ・「太田ステージ」、「成長ホルモン」、「支援計画」、「自立活動の目標設定」についての研修を実施。全ての研修の講師を担当部教員が担った。児童生徒の実態や課題、教員のニーズを反映させた研修を実施できた。 また、「事例検討会」を実施予定。（○） ⑧「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90.4%（0.6P↓） ⑧「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」80%（3.2P↑） （2） ⑧「教職員は子どもの障がいについて理解している」94・2%（2P↑） ⑧「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」60%（2.1P↑） ア・10 月に「個別の教育支援計画」の基礎的知識についてと、本校における「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」についての研修を実施。（○） ・今年度の職員施設見学会は7月末に実施。実習先ともなる特例子会社を見学し、「特例子会社」とは何かということや就労支援について学ぶ機会となった。夏季休業開始数日後で教員もゆとりがあり、多くの教員が長期休暇に入る前の設定により、参加者促進につながった。（○） イ・月初めの朝の連絡会などにアナウンスを行い、児童生徒の呼名の「さん」「くん」づけの意識を高められるように、啓発を行った。（○） ・前期職員人権研修（ホヅティブリルミングについて）を7/31 に実施した。また、2/3 に本校各学部の人権に関する目標（アクションプラン）の検証についての人権研修を実施した。（○） （3） ア・10 月職場におけるハラスミト防止についての通知を職員全体に周知した。（○） ⑧「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%（3.4p↓） イ・「首席カフェ」は今年度は新転任者を対象に実施し、個々への相談体制の構築にも役立っている。（○） ⑧「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができていいる」80%（4.2P↑） ⑧「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」85%（8.2P↑）
		（2）「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす （2） ア 専門性の向上 ・研修を実施し「児童生徒の実態把握」等の手段についての学びを深める ・実態把握のためのチェックシートを周知し、活用する。 ・効果的な職員施設見学会のための時期の検討 イ 人権意識の向上 ・「児童生徒の人権を守るためにできること」、「自己肯定感を高める取り組み」についての学習会を実施 ・「安全で安心な学校づくり推進事業（府立学校）」に応募し校内研修などを実施 （3） ア 職場におけるハラスメントの防止【人】 イ 教員間のコミュニケーション機会増 ・「首席カフェ」の継続実施に向けた検討 ・研修等を活用したコミュニケーション機会の設定		

	（４）ICT 機器の積極的かつ効果的な活用した取り組みの推進。	（４） ア ICT の効果的な活用 ・ICT 機器やアプリ、クラウドサービスの活用支援方法の研修を実施 イ ICT を活用した教材づくり ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理 ウ 統合ICTネットワークの円滑な導入	（４） ア ⑩「学校は子どもに 1 人 1 台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」65%以上[63.6%] ・研修が実施できたか。 イ・教材データの整理ができたか。 ウ PT を立ち上げ、トラブルなく統合 ICT ネットワークの導入ができたか。	（４） ア ⑩「学校は子どもに 1 人 1 台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」56.4%（6.7P ↓）（△） ・全家庭が端末を持ち帰って宿題を提出するといった地域の学校との違いを感じている保護者が多いことも要因としてあげられる。授業参観アンケートでは、活用の効果について肯定的な意見が多数あるため、引き続き活用の工夫を行うとともに、情報発信を行っていく。 ・夏季、冬季休業中に 1 人 1 台端末を操作しながらの体験型研修を実施した。（○） イ・年度当初に教材データ格納場所を示し、各学部・学年のペースで共有化を進めた。8月の職員集会では他学部の閲覧が可能になり、教材の使用ができています。多くの教材データが集まっている。（○） ウ・校内で必要な動きと、新端末によって校内で変えることができることについて議論をした。（○） ・ブレ稼働期間中にスムーズな環境移行を示すことでトラブルなく導入を進めることができている。事前に更新情報を要約しながら提示し、順次更新作業が進んでいる。各学部ごとの説明会も行い、丁寧に進めている。（○）
3 人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される学校づくり	（１）保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境の確保 （２）危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組む （３）体罰防止と個人情報の適切な管理運用を行う体制の確立。	（１） ア 校内の防災、緊急時への備えの充実 イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応 （２） ア 防犯、防災学習の充実に向けた検証と改善 イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進 （３） ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進	（１） ア ⑩「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」85%以上[84%] ・大規模災害対応 PT を立ち上げ、「大規模災害マニュアル」の見直しと周知が出来たか。 「通学バス緊急対応マニュアル」の周知と活用 イ ⑩「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70%以上[63.9%] ⑩「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」75%以上維持[82.1%] ・年度初めに、「自主通学生」、「バス誘導体制」、「放課後等デイへの引き渡し体制」の確認を行えたか。 ・見守りソリューションシステムの運用、通学バスコース変更等の対応が迅速にできたか。 ・安全点検や施設整備の実施に関する内容を都度、ブログや文書等で保護者に周知できたか。 ・食物アレルギーの緊急時対応研修が実施できたか。 （２） ア ・外部機関と連携し、安全研修が実施できたか（3回以上） ・年度初めに教職員を対象とした「引き渡し訓練」を実施できたか。 ・前期に防災教育を実施できたか。 イ ⑩「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」75%以上維持[79%] ・災害用備蓄品の不足分の計画的な購入と補充に向けた確認ができたか。 ・各保護者と学校が協力して、児童生徒の避難場所、避難所を確認できたか。（緊急時連絡カードの活用） （３） ア ・人権侵害事象ゼロであったか。 ・人権研修を 2 回実施できたか。	（１） ⑩「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」96.2%（11.7P ↑） ア・昨年度より一部改正を行い、4月に各部署へ配布した。通学バスへも配布し、安全研修として内容の確認を行った。（◎） ・「大規模災害マニュアル」を修正した。確定後全校に周知する。（○） ・4/3 に安全研修を行い、全職員に対してマニュアルの周知を行った。（○） イ ⑩「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70.5%（6.6P ↑） ⑩「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」87%（4.9P ↑） ・年度初めに、教員間で「自主通学生」、「バス誘導体制」、「放課後等デイへの引き渡し体制」の確認をそれぞれ行った。（○） ・年度初めに、知らせてビューアの地図の更新とバス停の更新を行った。（○） ・修繕箇所等を文書等で保護者に周知することができた。今後も引き続き、ブログでも周知していく。（○） ・食物アレルギーは、8月に対応動画を作成し、府教委の動画視聴も合わせて校内全体研修を実施した。（○） （２） ア ・5、8、11 月に安全研修及び防犯訓練を実施した。（○） ・7/10 に「引き渡し訓練」を実施した。（○）。 ・防災教育は、各学部 1 学期に実施した。（○） イ ⑩「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」87.2%（8.5P ↑） ・大規模災害 PT で、災害用備蓄品の不足分の計画的な購入と補充に向けた確認を行った。また、校内に設置している防災用かまどベンチを使用し、炊き出しを行った。（◎） ・災害時緊急連絡カードを、新入生については入学時に、在校生については年度初めの個人懇談時に記入・更新をしていただいた。更新した緊急連絡カードを使用しての確認作業を行えた。今後、有事の際には活用できることが確認できた（○） （３） ア ・人権侵害事象は0件を維持できている。（○） ・7/31 に、前期の職員人研修（「ポジティブリレー

		・人権研修の実施 ・人権アクションプランの周知徹底 イ・個人情報の取り扱いに対する意識向上 (4)アワークライフバランスを意識した働き方への意識改革	・年度初めに全校で「さん」「くん」の呼名徹底のためにミニ学習会が開催できたか。 イ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会開催できたか。 ・個人情報の目録の更新の検討を進めることができたか。 (4)ア・定時退勤日(週1回)の徹底実施と施錠時間の遵守ができたか【管】 ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」103以下[103]【安】 ・各分掌等で効率の良い業務の推進についての協議と調整ができ、全校での確認ができたか。 ・曜日固定による計画的な会議設定ができたか。 ・週1回のノー会議デイ(NMD)の徹底ができたか。	シグ」について)を実施した。また、2/3に本校各学部の人権に関する目標(アクションプラン)の検証についての人権研修を実施した。(○) ・4月に児童生徒の人権を守るための本校各学部の人権に関する目標(アクションプラン)の改訂版を全教職員に周知し、「さん」「くん」の呼名徹底について全校で確認できた。(○) イ・1学期に「文書の誤配付防止に向けたミニ学習会」、2学期には「個人情報の適正管理のためのセルフチェック」を各クラス単位で実施し、全体でも情報を共有した。(○) ・目録の更新については指示書確認後行っていく。目録の更新に向けて、担当委員会で内容や見直しを確認できた。次年度は委員会の回数も増やし、各項目の詳細な内容の検討も行う予定。(○) (4) ア・朝の連絡会および校内放送で周知や促しを行っている。呼びかけや実施は徹底でき、昨年度に比べて全校の時間外勤務の時間は11.6%減ったが、緊急対応や行事前等には、施錠時間の遵守ができない日もあった。(△) ・夏季休業中に実施した。総合健康リスク指数は[106]だった。3P↑となった。しかし、「職場の支援」の数値は改善することができた。(○) ・実施数の向上をねらい、チェック後に申告制とした。(○) ・1学期を目途に各分掌、各学部主事から意見を集約。夏季休業中に管理職と検討し、順次、各分掌、各学部主事に返答した。各担当部署で次年度に向けて検討している。(○) ・固定で行うことで月の前半に定例の会議、後半に研修などを設定できる月を増やすことができた。(11ヵ月中8ヵ月)(8月を除く)(○) ・曜日の固定をせず柔軟に対応することである程度徹底することができている。また、致し方なくノー会議デーに会議を実施した場合は同一週に意識してノー会議デーをとるようにアナウンスしている。(年24回設定)(○)
4 センター的機能の充実と地域連携の推進	(1)支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実 (2)本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携強化 (3)交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解の構築。	(1)ア関係機関との連携強化 ・新就学、進学に向けた市教委との情報共有 ・センター的機能の発揮 地域の学校教員対象の研修会(「守口門真支援教育Lab」)の開催 (2)アホームページの充実を図る ・見やすいホームページに向けた検討 ・定期的なブログUPによる教育活動の紹介 イ本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成 (3)ア近隣校との交流の充実と地域の交流活動への参加	(1)ア・就学に向けた市教委との連絡会の時期を早め実施(3回以上) ・守口門真支援教育Labの開催(3回) ・守口門真支援教育Labへ本校教員の参加率を上げることができたか。(10人以上/各回) ・地域支援整備事業の推進校として円滑に運営を行うことができたか。 (2)ア・保護者の閲覧数増加に向けたブログ掲載の計画を立てられたか。【情】 保「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」70%以上維持[75%] イR7創立30周年式典のPTを実行委員会とし、準備を進めることができたか。 (3)ア・各学部主事や係より交流活動の報告会を行い全校で共有できたか。 保護者へも交流の活動を周知できたか。【学年、学部】 保「学校は子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている」75%以上維持[75%] 教「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」75%以上維持[85.3%] ・守口市「春を呼びコンサート」へ全校で参加することができたか。	(1)ア・5月、6月に実施。9月、10月就学支援委員会にて共有している。(○) ・7月に3回実施。(○) ・本校教員の参加は総勢33名、1回平均11名の参加であった。(○) ・北河内地区の推進校として2回ZOOM会議を実施、各校の夏季公開研修のまとめ、検証をしている。(○) (2)ア・年度当初に計画を策定できた。計画案通りUPできている。3大行事も各準備委員会が記事を担当している。4月から8月までの各月の閲覧数は昨年度の同月よりも全て上昇している。(○) 保「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」82.7%(7.3P↑) イ・令和7年7月18日実施予定で計画通りに会議や準備を進めることができています。(○) ・地域啓発資料として学校紹介動画を入学説明会や地域交流会などで上映した。(○) (3)ア・10月職員会議にて交流活動の報告会を実施。(○) ・交流活動を行った際には交流ブログにて保護者への活動の報告をあげている。(○) 保「学校は子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている」87.2%(11・8P↑) 教「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」84%(1.3P↓) ・「春コン実行委員」と「オリジナルダンス」の係に役割分担をして進めている。「実行委員」は

		イ 地域でのあいさつ、清掃運動実施 ・児童生徒活動、全校集会の検討と見直しによる充実した活動の実施	イ・児童生徒活動や全校集会の検討と見直しができたか。 ・生徒会による地域でのあいさつ運動ができたか。 ・清掃運動実施（前期・後期各 1 回）できたか。	会議に参加、運営に参画している。「オリジナルダンス」は今年度内に完成をめざし、次年度から全校で取り組んでいきたい。生徒の参加は今年度はカラオケのみにし、次年度から演目として参加できるように進める。（○） イ・昨年度から大幅に変更し、毎月全校集会を計画、実施した。また、職員アンケートを取り、よりよい集会を開催できるよう検討を行った。（○） ・前期（6/7）後期（12/13）高等部の生徒会を中心に、校門前で地域の方々にあいさつ運動を行った。（○） ・前期（5/29）後期（12/9）高等部の保健美化委員会を中心に、学校周辺の清掃運動を行った。（○）
--	--	---	--	--